

第9回南区自治協議会 議事概要

日 時 令和8年2月25日(水) 午後2時00分～午後3時30分

会 場 新潟市南区役所4階 講堂

- 次 第
- 1 開会
 - 2 報告
 - (1) 南区まちづくり活動サポート事業 実施報告
 - ・ボランティアサークルふおうはあと
 - ・庄瀬地域コミュニティ協議会
 - (2) 令和8年度南区主な取り組みについて
 - (3) 地域クラブ活動について(1月自治協質問を受けて)
 - 3 部会報告
 - 4 その他
 - 5 次回全体会の日程について
 - 6 閉会

事前配布資料

資料2 令和8年度南区主な取り組み

当日配布資料

- 資料1 「南区まちづくり活動サポート事業」実績報告書、収支決算書
 - (a) ボランティアサークルふおうはあと
 - (b) 庄瀬地域コミュニティ協議会
- 資料3 「新潟市の中学生のための地域クラブ活動推進の進捗と次年度の取組について」
1月自治協議会 ご質問・ご意見に対する回答
- 資料4-1 南区自治協議会第1部会 会議概要
- 資料4-2 南区自治協議会第2部会 会議概要
- 資料4-3 南区自治協議会第3部会 会議概要
- その他資料 白南防災啓発講座
- その他資料 Spring Concert
- その他資料 白根大風合戦2026 クラウドファンディング
- その他資料 白根大風合戦2026 サポーター企業募集
- その他資料 南区防災セミナー

出席委員： 関川秀明委員、中村道里委員、高橋文子委員、真保慶一委員、松田松衛委員、風間哲也委員、有田正己委員、志賀康則委員、星野正春委員、木下重栄委員、関本昭英委員、渡邊喜夫委員、小林典子委員、関根武史委員、本永美雪委員、大井 淳委員、上杉小貴子委員、堤 美幸委員、松尾正行委員、織田絹子委員、泉田紀代恵委員、大関五月委員、鈴木弘行委員、西山ゆき委員、上杉知己委員
以上25名

欠席委員： 水野 武委員、星野 誠委員、堤 恭佑委員

事務局：(南区) 関副区長、本間区民生活課長、小林健康福祉課長、柏木産業振興課長、細貝建設課長、和田味方出張所長、星野月瀉出張所長、間嶋南区教育支援センター所長、拝野白根地区公民館長、灰野地域総務課長補佐、北地域総務課長補佐、地域総務課職員
(本庁) 学校支援課地域クラブ活動推進室職員

〔欠席所属〕長浜区長、佐藤農業委員会事務局南区事務所長

報道 1名
傍聴者 0名

(午後2時00分)

1 開会

○事務局（北地域総務課長補佐）（配布資料の確認）

○議長（関川会長） 第9回南区自治協議会を開催します。

冬季オリンピック、今回は新潟県出身者、新潟県を拠点としている選手たちの活躍によって大変盛り上がりました。寒い冬でしたが、私自身もけっこう熱が入りまして、久しぶりに応援しました。思い起こせば30年くらい前、長野冬季オリンピック以来、冬季のオリンピックが盛り上がったのは久しぶりで、大変嬉しかったです。

では、会議に入りたいと思います。欠席委員の報告をさせていただきます。水野武委員、堤恭佑委員の2名から欠席の報告を受けております。出席者が過半数に達していますので、自治協議会条例の規定を充足していることを報告します。

2 報告

(1) 南区まちづくり活動サポート 実施報告

○議長（関川会長） それでは、報告に入らせていただきます。報告（1）南区まちづくり活動サポート事業の実施報告に入ります。今年度実施した4団体のうち、今日は2団体から取り組んでいただいた事業を順次報告していただきます。他の2団体については次回の全体会で報告していただきます。

はじめに、ボランティアサークルふおうはあとの「みんなの居場所をみんなで作る」です。ふおうはあとの皆さん、よろしく願いいたします。

○ボランティアサークルふおうはあと ふおうはあとのメンバーの高橋と申します。よろしくお願い致します。今年度も2年目になりますけれども、「みんなの居場所をみんなで作る」という事業を実施させていただきました。ありがとうございます。資料にもありますが、「縦横斜めの豊かな関係を築き、地域みんなが顔なじみ・地域のみんなで子育てしようを合言葉に、一人ひとりが尊重しあい、誰にとっても居心地のよい、ひらかれた地域をめざす」として2年目の活動を行いました。内容としましては、昨年度好評だったアロマ教室や、夏休みを利用しての科学実験教室や、毎年好評のお寺で遊ぼう、最後に、ぐるっと南区東西南北という4事業を行いました。アロマ教室では、いろいろな世代の方からも参加がありまして、また、内容も手づくりで石けんを作ったり、南区在住の先生から来ていただいて、クリスタルボウル、すごく素敵なのですが、ゆったりとしたいい時間が流れて、よい音に包まれて、とてもいい時間を過ごすことができました。科学実験教室では、実際に先生に手伝っていただきながら、こどもたちが驚くような科学実験をすることができました。お寺で遊ぼうでは、夏休みにしかできない、夏ならではの水鉄砲や虫取りやかき氷などを楽しみました。おじいちゃん、おばあちゃんからも手伝っていただいて、一緒におやつを食べたり、ご飯を食べたりすることができました。最後は、南区を知る機会をつくらうということで、バス遠足をしました。南区の中でも行きたいな、行ったらいいだろうなと思うところがたくさんありましたので、月潟や味方にもお邪魔させていただいて、本当にお世話になりました。ありがとうございます。

今回は、申し込みにすべて二次元コードをつけて、申し込みしやすいように工夫しました。私たちの参加者の把握もすごく楽になりましたし、申し込まれる方も楽に申し込めるようになったかなと思っています。これは引き続き続けていきたいと思っています。

1年を通して、こどもたちや参加された方から、次にこういうことをやりたいなといった声を聞くと、実現したいなと思うのですが、スタッフの手も足りないの、次年度はボランティアスタッフを増やしていけるように工夫していきたいと思っています。地域にとっても、スタッフにとっても居心地がいい、楽しい活動を展開していきたいと思っています。こどもたちや地域の

大人のやりたいをもっと具体化していけたらいいなと思っております。

○議長（関川会長） ありがとうございます。ただいまの報告につきまして、ご意見や質問がありましたら、お願いしたいと思います。

○上杉知己委員 大変いい企画だと思うのですが、この内容を見ますと、継続は3回までだと、支援がなくなると事業が終わってしまうということがあるのですが、継続される方法がありますか。

○ボランティアサークルふおうはあと 別の補助金を活用することや、実は今年度から、参加費を上げております。

○上杉知己委員 分かりました。何かもう1回イベントできるようなことがあれば、ぜひやっていただきたいと思います。

○ボランティアサークルふおうはあと ありがとうございます。

○議長（関川会長） ほかにご質問をお願いします。

○上杉小貴子委員 今回、参加費を各事業に参加された方から頂いておられますが、例えば科学実験の場合の参加費500円は、どのような形で使われたのか、ご説明いただきたいと思います。そのあと食事が何かやられたのでしょうか。また、だいたい一つの事業で開催時間がどれくらいなのか教えてください。

○ボランティアサークルふおうはあと 科学実験の参加費500円については、写真にもあるように、色が変わる焼きそばをつくりました。いろいろな中の一つで、色が変わった焼きそばも食べましたし、新たにお昼は焼きそばをみんなで作って食べたということもあるので、そういうことに使いました。

開催時間は、だいたい9時半から10時くらいに始まって、13時、14時に終わる感じでしょうか。

○上杉小貴子委員 分かりました。ありがとうございます。

○ボランティアサークルふおうはあと 事業によって、午前中だけで終わったり、午後だけだったり、お寺で遊ぼうは毎年1日開催しております。

○議長（関川会長） ほかにありませんか。

○風間委員 参加者というのは、収支決算の内訳の各人数ということによろしいでしょうか。

○ボランティアサークルふおうはあと はい。

○風間委員 そうしますと、アロマ19名、実験14名、お寺が32名、園児1名。これはすごく盛況だったと思うのですが、バスのツアーが8名プラス1名ということで、この辺については、なぜここがこれだけ少ないのか、次はどうしようかということがありましたら、ということと、先ほども話が出たのですが、参加費の関係でも、例えばこれからこどもがこれだけ、大人も参加しているみたいなので、大人を少し上げようかなとか、その辺は考えておられますか。

○ボランティアサークルふおうはあと バスのツアーについては、チラシに3年生以下は保護者同伴と書きました。ですので、保護者が行けないという方が多かったのです。それで人数が少なくなったのかなと思っています。チラシも少し間違えていて、以下と未満を間違えて、300円なのか、500円なのか分からなかったりもして、そこが失敗だったなと思っています。参加費を上げるという部分では、来年度やっていきたいと思っています。

○議長（関川会長） ほかになければ、ボランティアサークルふおうはあとの「みんなの居場所をみんなでつくる」の報告を終了いたします。ボランティアサークルふおうはあとの皆さん、ありがとうございます。

続きまして、庄瀬地域コミュニティ協議会の多世代協働企画によるイベント「よるのがっこう」です。よろしく申し上げます。

○庄瀬地域コミュニティ協議会 庄瀬コミュニティ協議会の西山です。よろしく申し上げます。当コミュニティ協議会では、昨年、夏休み期間中の8月23日にイベント「よのがっこうDEAD or ALIVE」を開催しました。内容としては、夜間の小学校校舎を会場に、ゾンビに扮したスタッフが練り歩き、イルミネーションやお化け屋敷、おもてなし屋台、ダンスホール、DJブースなど、さまざまな趣向を凝らしたブースで来場者を楽しませました。開催に向けての3か月間、クリエイターと称したコアメンバーとLINEグループのチャットを活用して計画を練っていきました。メンバーは地域や学校の役員というわけではなく、募集チラシを見て、自発

的に参加した中学生や保護者世代、また、祖父母世代まで約50名、庄瀬小OBの高校生や大学生、中には庄瀬と全く縁のない地区外の大学生もいました。中学校時代あまり学校に通うことができなかったという子も参加してくれたのが大変うれしかったです。美術セット作りや衣装作りのワークショップ、特殊メイク講座など、準備段階もイベントの一環となっており、開催当日まで多世代で楽しみました。

イベント当日の来場者は約300名。スタッフを含めると400名ほど。そのうち小学生が130名。庄瀬小学校の全校生徒は68名ですので、2倍の数のこどもが来たこととなります。同日同時に白南学区の新飯田さん、茨曾根さん、また学区内の保育園でもイベントがあって丸かぶりしてしまったので、来場者数が心配されたのですが、予想以上の数の方が来てくださって、こどもも大人も終始大興奮で、イベントは大成功でした。印象的だったのは、イベント終了後に来場者だけではなく、スタッフサイドから「この3か月間が楽しすぎて、終わった途端にロス状態になった。来年はもっとこうしたい」といった声が聞かれたことです。どれだけ大人が本気で楽しんできたかは、本日お配りしている資料の中にあります写真をご覧ください。ちょうど昨日できあがったばかりの来年度のコミ協カレンダー、今、回覧させていただきましたが、表紙にスタッフの集合写真が使われましたので、そちらもご覧ください。

このイベントの目的は大きく三つです。一つは、こどもたちの夏休みの楽しい思い出づくりをすること、二つ目は、多世代交流、世代間交流。三つ目に、地域の宝である小学校の校舎の活用と、地域の強みである学校と地域のパートナーシップ事業の強化。このすべてを達成できたと実感しています。ありがたいことに、地域に影絵を作っているサークルがあるのですけれども、このメンバーは子育て世代ではありませんが、次回、ぜひコラボしたいという申し出がありました。みんなで地域を盛り上げようというよいきっかけづくりとなっていると実感できます。

今回の課題としては、役割分担の徹底と、準備のスケジュールや安全対策等で改善の余地がありますので、そちらを検討しつつ、クオリティも上げて、大人もこどもも一緒になって楽しみたいと思っています。

○議長（関川会長） ありがとうございます。ただいまの報告につきまして、ご意見、質問等がありましたら、お願いしたいと思います。

○渡邊委員 区老連の渡邊です。今、カレンダーを拝見させていただいて、非常にご苦労されたなと思いました。また、内容が非常によかったのも、これは庄瀬1地区にかかわらず、白根地区も全体でいいカレンダーができれば、皆さんがほっとするような明るいカレンダーになるのではないかと思いますので、できれば、区役所のほうも、白根のカレンダーを作っていただきたいと思いました。庄瀬の皆さん、大変ご苦労さまでした。ありがとうございます。

○庄瀬地域コミュニティ協議会 ありがとうございます。カレンダーは別事業なのですけれども、コミ協さんのほうにもお配りしますので、お待ちください。

○議長（関川会長） ほかにありませんでしょうか。

○上杉小貴子委員 PTAを中心に50名のボランティアが集まったと聞いて、非常にうらやましく思います。こういった企画的なものというのは、若い世代からあがってきたことなのでしょう。なかなか奇抜な企画なので、非常に興味をそそられます。

もう1点は質問なのですが、収支決算書を見ると、食料費等が全く計上されていない。そうすると、夜一生懸命、これは多分、夜なべ仕事で準備をされたとは思いますが、そういったこともすべてボランティアだったのか、そこら辺を教えてください。

○庄瀬地域コミュニティ協議会 50名というのは、チャットに登録したコアメンバーであって、実際、当日の運営や前日の設営などを含めるともっとたくさん、100名近いボランティアがいたと思います。食料費がないのは、ワークショップの時に茶1本しか出してなくて、お弁当などは一切ありません。食べる暇もほとんどなくやっていたのですけれども、特にスタッフのほうからお弁当がほしいとかといった声もなく、みんなが楽しんだので、運営している人と来客の壁がなかったというか、みんなが運営者であり、客でありという感じで楽しみました。

○上杉小貴子委員 イベントをやるには一番理想的な形ということですよ。みんなが楽しみながら一つのイベントを行うという中で満足感を得るといって、その形が全部表れていて、非常にうらやましく思いました。ありがとうございます。

○庄瀬地域コミュニティ協議会 お茶や食料を買う余裕があったら設備投資をしたかったなというスタッフの思いもあります。

○議長（関川会長） ほかにありませんでしょうか。

○鈴木委員 防災士の鈴木です。お聞きしたいのですが、支出の内訳の予算額のところで、保険料で1万円とあって、実際にはおそらくゼロなのか、ほかでどうこうしたのか分からないのですが、その辺を教えていただければと思います。

○庄瀬地域コミュニティ協議会 それを聞かされたくなかったのですけれども、イベント保険をかけ忘れたのです。危険なイベントではなかったのですけれども、事務局のほうでうっかりして保険をかけ忘れてしまったので、当日、開場する前にスタッフにはそれはきちんと注意喚起しまして、スタッフもそうだし、お客さんに危険がないようにみんなで見守りましょうということで、無事に終了することができました。来年は気をつけたいと思います。

○鈴木委員 ありがとうございます。

○議長（関川会長） ほかにないようであれば、庄瀬地域コミュニティ協議会の多世代協働企画によるイベント「よるのがっこう」の報告を終了いたします。庄瀬地域コミュニティ協議会の皆さん、ありがとうございました。

以上をもちまして、南区まちづくり活動サポート事業の実施報告を終了いたします。

（2）令和8年度南区主な取り組みについて

○議長（関川会長） 報告（2）令和8年度南区主な取り組みについて、地域総務課から報告をお願いいたします。

○関副区長 地域総務課の関です。令和8年度の南区の主な取り組みについて説明させていただきます。

資料2をご覧くださいと思います。この資料は特色ある区づくり事業や防災・福祉関係など、南区の主な事業を区ビジョンまちづくり計画の体系に合わせまとめたものになります。この資料の右上に囲みで記載しているのですけれども、事業番号の色が赤色のものが特色ある区づくり事業、青色のものが防災・福祉関係の事業、緑色のものがその他の事業となります。南区では、資料左上の「風と大地の恵みに新たな希望が芽吹く、郷土愛あふれるまち」を区の将来像として掲げ、その実現に向けて目指す姿を四つ設定しております。事業番号が赤色の特色ある区づくり事業につきましては、これまで自治協議会でもだいたい議論されてきたところ、あるいは各部会でも事業概要について説明させていただいておりますので、今回はそれ以外の事業に絞って説明をさせていただきますと思っています。

はじめに、資料左上、「行き交う人びとがにぎわいをもたらすまち」の中では、1番の区づくり事業として実施する区バス乗車促進事業のほか、下に参考で書いてありますが、都市交通政策課と連携しながら、AIを活用した予約型乗合バスの社会実験を行い、生活交通の効率化、区民の利便性の向上を図ってまいります。

次の、「地域の宝に気づき、守り、魅力あふれるまち」では、2番のチャレンジ農家応援事業を新規の特色ある区づくり事業として実施するほか、3番から8番までありますけれども、この6事業を昨年に引き続き行っていきます。

次に、「ともに築く安心に支えられるまち」のうち、10番の地域と取り組む防災事業になります。こちらでは、防災セミナーですとか、中学校での防災教室の開催、地域の防災訓練の支援などを行い、引き続き、地域防災力の強化を図ってまいります。後ほど本日のチラシにも防災セミナーがありますので、説明があるかと思えます。

次に、「やさしさの輪が広がり、誰もが主役として活躍できるまち」ですけれども、11番のみんなで子育てネットワークでは、子育て世代が少なく、郊外では自分の周囲に同じような子育て世代があまりいないといった南区の課題を踏まえ、地域住民からなる子育て支援リーダー、通称、子育てオーエンジャーみなみの皆様の協力をいただきながら、子育て広場や交流会を開催することで、子育て世代のネットワークづくりに取り組んでまいります。また、12番にありますけれども、こどもたちの居場所の充実に向け、児童館利用促進事業として、出張児童館の取り組みを引き続き行ってまいります。13番の健康づくり推進事業では、食育・運動講座や糖尿病予防相談会を開催し、引き続き区民の健康づくりを推進してまいります。18番になります。地域おこし協力隊を活用した地域活性化事業になります。皆様ご存じのとおり、南区では以前から総務省の制度を利用し、地域おこし協力隊員による地域活性化に向けた取り組みを行ってまいりました。現在の隊員の任期が今年度末で満了となります。ここで一つ区切りを迎えるのですけれども、引き

続きこの制度を来年度も活用していきたいと考えております。今後、新年度に向けて新たな隊員を募集し事業を継続していく予定にしております。

簡単ではございますが、令和8年度の南区の主な取り組みについてのご報告は以上でございます。

○議長（関川会長） ただいまの報告につきまして、ご意見、質問等がありましたらお願いします。なければ、「令和8年度の南区の主な取り組みについて」はこれで終わります。

（3）地域クラブ活動について（1月自治協賛問を受けて）

○議長（関川会長） 報告（3）に移ります。地域クラブ活動について、先月の自治協議会の質問を受けて学校支援課地域クラブ活動推進室からの報告でございます。よろしくお願いいたします。

○八木学校支援課地域クラブ活動推進室長 改めまして、こんにちは。1月の自治協議会に引き続き2月も参加させていただきまして、本当にありがとうございます。1月に頂きました質問に対してお答えさせていただければと思います。

資料3をご覧ください。上段から、資料2、P3部活動継続が25となっておりますがの質問に対してです。本市では、令和8年度以降、25校が部活動を継続する予定です。部活動を「継続する」「しない」は各学校で学校や地域の実態を踏まえて教育活動全体を見直す中で検討してきました。令和8年度以降の部活動については活動時間が短くなるため、より生徒の主体性や自主性を生かし、競技志向ではなく、趣味、レク的な方向になるものと想定しています。部活動を継続しない学校でも、別の形で放課後活動を検討したり、教育課程そのものを見直す学校もあります。

こちらにつきましては、先月の説明でもパワーポイントのスライドをお示しさせていただいたところでありまして、具体的に南区の六つの中学校の今後の部活動のあり方とか、各学校の部活動の受け皿の状態とかということをお話をさせていただいたところです。六つの中学校のうち、部活動を継続するのが白南中学校と白井中学校と月潟中学校の三つです。時間は短くなりますけれども、子どもたちが文化、スポーツに触れる機会はあるという形になります。部活動を継続しない学校については、白根第一中学校、白根北中学校、味方中学校になります。味方中学校については、味方スクールクラブというものを今後組織して、今まであった部活動の受け皿になるようにということで、卓球または吹奏楽などの活動を行っていくと聞いております。本日、味方中学校の学校運営協議会がこれから行われるのですけれども、そこに地域クラブの設立コーディネーターも参加しながら一緒に、どのような形でということ考えていくという会があります。白根第一中学校と白根北中学校については、今のところ受け皿がないというところについては、白根北中学校のソフトテニスでございます。こちらについては、部活動の外部指導者がクラブをやるのかなと考えていたところだったのですけれども、今、クラブの設立には至っていないと聞いています。ただ、ソフトテニス連盟でSSSというソフトテニスのクラブを団体リストに掲載していただいております。白根カルチャーセンターを利用して活動しているというところですので、こちらのほうに参加が可能になっているかなというところでありまして、

続いて、バドミントンについても白根第一中学校と白根北中学校が受け皿がないということで、こちらで把握しております。ただ、もともと白根エンゼルスというバドミントンのクラブがあると聞いております。私も、白根北中学校に勤めているときにバドミントン部の子が白根エンゼルスに行っているといったことを聞いていたところでありました。白根エンゼルスさんに、団体リストに掲載していただいて、新潟市の支援を受けていただけるようにということで、働きかけを継続していきたいと思っております。

続いて、卓球、白根北中学校の受け皿が今はないところでありまして。こちらについては、白根アトムさん、または白根卓球クラブさんが受け皿になり得るかなということで、カルチャーセンターで活動しているということで、団体リストに掲載していただいております。

続いて、白根北中学校の柔道も今受け皿がないと聞いていますけれども、こちらについては、JUDO南スタイルさんが団体リストに掲載していただいております。白根北中学校の生徒も受け入れ可能となっておりますし、私が白根北に勤めているときには、柔道部の子は別の柔道の団体で夜活動しているということもあつたりしました。

最後です。美術部の受け皿が白根第一、白根北では今ない状態でありまして。こちらについては、先ほどお話がありました地域おこし協力隊の杉崎さんが美術で地域クラブ、または子どもたち

が美術的な活動ができるように取り組んでいきたいということで、そこは杉崎さんと情報連携をしながら、今後、動きがまだはっきりしていないところもあろうかと思うのですけれども、子どもたちの活動の場ということで、受け皿を作っていたいただければありがたいと思っていますところでは。

資料3に戻ります。2段目です。クラブ活動を希望する生徒がどれくらいいるのか分かりません。クラブ活動に入る生徒がという質問に対してです。子どもたちへのアンケート調査については令和5年5月に実施しており、部活動や地域クラブへの所属の状況は把握させていただいております。令和8年度以降も引き続き子どもたちへのアンケートを実施するほか、保護者に対しても調査を行う予定です。子どもたちや保護者のニーズをしっかりと把握し、その分析に基づいて地域展開を推進していきたいと思っております。なお、令和5年12月に小学5年生、6年生を対象にしたアンケートを取らせていただいております。今、新潟市が進めている地域クラブの推進については、その結果を基にしながら進めさせていただいているところでございます。

その調査では、当時、小学5年生、6年生の中で、地域クラブ活動に参加したいと思っておりますか、に対しては60パーセントの児童が行いたいと考えていたところでございます。当時答えた5年生、6年生が今は中学1年生、2年生になります。ですので、来年度、アンケートを推進室としても全体に取っていきたく思っているのですけれども、答えた子たちが今度は中学2年生、3年生になるといった中でこういった状況になっているのかも見ていきたいと思っております。

3段目です。中体連の大会参加はどうなるのか。今後の中体連大会は継続していくのかということですが、こちらについてもたくさん声を頂いているところでありますけれども、中学校体育連盟の組織のことになってきますので、こちらが今得ている情報ということで、中体連の大会については、今後規模を縮小しながら継続していくと思われまます。現在、全国大会については、令和9年度からは今やっている種目の中から、例えば水泳とか、ハンドボールとか、相撲とか、中学校の部活動にはない種目は廃止して、令和9年からは行うと聞いております。令和11年、令和12年で見直しを行ってということ聞いております。また、北信越体育連盟のほうで、北信越大会を行っているところでありますけれども、こちらについては現在、令和11年までは今までどおりの形で大会を継続していく予定だと聞いております。新潟県、新潟市の大会については、今のところ北信越大会の状況を見ながら、それを踏まえて大会を行っていくということで考えているところであります。ただ、大会を実際に運営するのは各専門部でございます。その専門部が大会を運営するといったときに、やはり厳しいなとか、そういった形になれば、大会そのものはあるけれども、種目を行えないとか、そういったこともあり得るかもしれません。

なお、部活動を継続する学校では、大会参加が可能です。また、地域クラブでも中体連の承認を受ければ大会に参加することは可能です。実際、地域クラブが中体連の参加を認定されてという数が多くなってきております。今年度に関しては、全体で200以上の認定クラブが新潟県であったということで聞いておりますし、新潟市を拠点とする地域クラブについても100以上が認定されて、中体連の大会に出ているという形になってきます。詳しいところは、中体連のホームページを見ていただければお分かりになるかなと思っておりますので、お時間がありましたら見ていただければと思います。

4段目です。大会に出場するための交通費などはすべて保護者の負担となりということでありまます。大会に出場するための経費などについては、これまでの部活動で大会に参加する場合であっても、参加費や交通費は保護者が負担をしていました。ただ、学校によっては部活動費や後援会費、またはPTA会費などでみんなからプールしたお金を各部活動に、また各個人にということでお渡ししていたということもあるのですけれども、学校によっては参加も、交通費についてもやはり受益者負担だろうとの流れが大きくなってきていたかと思っております。なお、中体連主催の県大会以上の出場者には、部活動所属、地域クラブ所属にかかわらず、同様に本市では激励金が支給されております。今年度も地域クラブで激励金をといたところについては、スポーツ系で65、こちらのほうには中体連主催のとは書いていないのですけれども、吹奏楽コンクールについても激励金制度がありますので、こちらについては今年度一つのクラブが県大会、西関東のほうに出場しましたので、激励金をお渡しさせていただいている形になります。

続いて、移動支援を早く実施できることを願います。移動手段については地域によって状況が異なるため、公平性を担保することは難しい状況ですが、地域の実情に応じた必要な支援を他都市の状況を踏まえ、しっかりと検討していきたいと思っております。こちらについては、まず教

育委員会でやれることということで、スクールバスの有効活用、今年度は北区でのモデル事業をやらせていただきました。スクールバスを地域クラブで、といったときに、さまざまなハードルがあって、それをクリアして、実際に昨年10月の終わりから、10月、11月、12月、3月なのですけれども、実証的に行っていきたいと思っています。その実証を踏まえて、しっかり検証して、このような形であれば使えるというものを示していきたいと思っています。また、国のほうでは、移動手段の課題に対してスクールバスの有効活用もそうですし、地域公共交通の運行ダイヤにあわせた地域クラブ活動の実施、また地域公共交通の運行ダイヤの見直しの検討、AIオンデマンド交通などの新技術や自家用有償旅客運送、公共ライドシェアの仕組みなどの活用といったこともうたっているところがございますので、こちらについては各区の状況を見ながら、検討しながら、または模索しながらということで、こどもたちの移動の確保に向けて取り組んでいきたいと思っていますところでもあります。

最後の質問です。持続可能な支援として運営支援とありますが、具体的な内容はどのようなものでしょうかということでもあります。地域クラブの各団体への運営支援については、指導者謝金や消耗品などの購入にかかわる補助金や、活動場所の確保に向けた学校施設利用に関する制度の設計、団体の運営や活動の相談に対応するためのコーディネーターの配置を想定しています、ということでもあります。特に、これも1月にお話しさせていただきましたけれども、今年度の指導者謝金の補助に加えて、各クラブが使う消耗品などの物品の補助も来年度はさせていただきたいと思っています。こちらについては、各クラブから声があったところでもあります。金額的にも今のところ今年度を上回る補助金の予算を立てているところがございますので、できるだけ多くのクラブさんからこの補助制度を活用していただいて、クラブの運営、そして参加する生徒さんがより低廉な参加費で活動できるように、そういったクラブができるだけ多くなるようにということで、今、補助金の制度も含めて取り組んでいるところでもあります。こちらについては、もちろん予算が議会で固まってという形になろうかなと思うのですけれども、できるだけ早くクラブさんに、こういった補助制度がありますということを示して、活用していただきたいと思っていますところでもあります。

また、活動場所の確保に向けたというところがございますけれども、こちら1月でお話をさせていただきました。ジュニア専用枠ということで、今まで部活動が使っていた平日の時間帯17時から19時、お休みの日の日中の時間、こちらについては団体リスト掲載の地域クラブが優先的に使えるようにさせていただきました。そして現在、各学校で調整会議を行って、より使いやすいように取り組んでいくという形で、そこにはもちろん学校の担当者も入って、学校としてもやはり決まりというものが大事になってくるかと思っておりますので、そちらのほうも示しながら、団体さんのほうがセキュリティも解除しながら、音楽室も使っていただけるようにということで準備をさせていただいているところがございます。

質問に回答させていただいていないところについては、貴重なご意見であるということを受け止めさせていただいておりますので、こちらについてもまた推進室のほうでもご意見を賜りまして、来年度の推進に役立てさせていただきたいと思っていますところでもあります。

長くなりましたけれども、質問の回答、プラスアルファということをお話をさせていただきました。貴重な時間、ありがとうございました。

○議長（関川会長） ありがとうございます。今日、回答の中にも予算の話が出ましたが、先ほどの話ですと、今日は予算の話はなくて、議会をとってからということになるのでしょうか。具体的な予算、いくらくらいだったとか、どうだという内訳については後日ということになるのでしょうか。

○八木学校支援課地域クラブ活動推進室長 全体では、今のところ、8,800万ということで予算立てをさせていただきました。その中の主な金額が先ほどの補助金ということでございます。

○議長（関川会長） それでは、ただいまの報告についてご意見、質問がありましたらお願いしたいと思います。

○大井委員 先ほどの予算という話なのですが、何度かお話ししたことがあると思うのですけれども、同じクラブチームの中にもともと高額な会費、1万円くらいかかるようなクラブチームもあれば、今回にあわせて発足して、1,000円という会費でやっているところもあるのです。補助額が増額されるとか、枠が広がるということで、あたかも運営が楽になるようなお話に聞こ

えがちなのですけれども、もともと1万円の月謝をもらっているところであれば単純な増額になると思うのです。もともと指導料がしっかりもらえている中で、さらに2分の1補助ということであれば、50万もらうためには50万払わなければいけないので、それができるクラブチームは単純な増になると思うのですけれども、ボランティア的に月1,000円で始めたところは、自分たちが指導料を50万もらおうとしたら、それも保護者に負担をお願いする形になります。そうすると、自分たちの運営費のほとんどが指導料になってしまうから、もらっていないところが多すぎたのです。いかにも増額すると運営を補助しているように、もちろん補助はしているのですけれども、そこにすごく差があるなどというのがあるので、こういった説明にあっても、そういったところはもう少し丁寧に説明しないと、意図的なお金の使われ方というところが、皆さんにイメージだけで伝わるだけで、本質的なところが伝わらないので、地域展開の指導者不足とか、会場費が高いとか、新潟市における問題はそういったところが解決されていない。今、議会で採決される場所も、そこにフォローがいていないのではないかと私は思うので、説明のときも、そこまで掘り下げて言わないと、皆さんにイメージだけが伝わって、やっている感だけ伝わるようなものになるのかなと思います。

○八木学校支援課地域クラブ活動推進室長 貴重なご意見ありがとうございます。実際にクラブをやられている方たちというのは本当に難儀をされておりますし、子どもたちのためにというところがあつたりしますので、私の説明の中で何かいいようなことばかり言っていると思われて、本当に申し訳ないなと思っております。私も実際に地域クラブにかかわって、月2回なのですけれども、2回行くのでもやっとなのであります。ただ、やはり子どもたちのためにというところは皆さんと気持ちは一緒でありますので、今頂いた声も参考にさせていただきたいと思っております。ただ、国のほうが参加費の目安を示したと思います。こちらについては、休日の1日やって、月4回で参加費3,000円という目安を国は言っています。月4回で3,000円というような、それが今の目安であります。ただ、国は休日のことだけ言っているのですけれども、もちろん新潟市については平日も地域クラブもやっていたいておりますので、月4回で3,000円ということで、もっとやったらというようなところも出てくるかなと思います。もちろん子どもたちの参加費については低廉に抑えたいというところはあるのですけれども、逆に指導者を確保するためには、やはり指導者謝金といったところもしっかりと指導者に見返りをやっていかないと、今後、指導者も、それではやれないなとかという話になってくると、これは大変なので、参加費用を抑えながら、そして指導者のほうにもしっかりと謝金を渡していきたい。そして国のほうの目安というものも出てきたというところで、いろいろなバランスを考えながら今後も考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○議長（関川会長） ほかに質問はありますか。

○渡邊委員 今の説明で分かったつもりでいるのですけれども、市のほうの支援金として考えてもらいたいのは、今、児童が多いからとか、少ないからという考えは全然なくて、支援金という意味で出しているというようなことで理解してよろしいですか。支援するグループに対する支援金、それは児童数の大小ではなくて、一つの団体として、先ほど月いくらとおっしゃったと思うのですけれども、大小はあると思うのです、団体の中には、たくさんいる児童、少ない児童ということがあるので、そういうことは加味されているのですかということをお聞きしたかったのです。

○八木学校支援課地域クラブ活動推進室長 補助金の仕組みということでしょうか。今のところ、そのクラブで何回活動したかということと、それから、だいたいこちらとしては、1回の指導で指導者は2,000円というふうに考えております。ですので、2,000円のうちの半額を補助するというような形で考えております。先ほど、大井委員がおっしゃったように、半額の補助になってきますので、もう1,000円分はクラブとして会費で子どもたちから集めたとか、または会費だけではなくて、何らかの形でクラウドファンディングとか、そういった形でお金を集めて、指導者謝金にあててという形になっておりますので、指導者は1回で2,000円の半分。それで何回そのクラブが活動したかということで補助金をお渡ししておりました。マックス50万円までということで今年度はさせていただいたところです。

○渡邊委員 分かりました。

○松尾委員 松尾です。

今、お金の話がけっこう出ているのですけれども、なかなかコーチによってお金というのは、

かなり厳しいものもあるし、ボランティアの人もあるし、難しいところがあるのですよね。私、卓球ですけども、自分の地元はカルチャーでやる練習のボールは、卓球連盟でジュニアのものもみんな寄附して出しています。ですから、私からすれば、どちらかと言えば物品関係を少し援助していただければありがたいかなと思います。

そして、月謝を出すのも、例えば、我々中国コーチを雇っていたときは、中国コーチというのは大体25万円くらいを要望するのです。そうすると50人くらい集めないとそろばんに合わないのですよね。そうすると、1万円ずつ取ると、これ問題が起きてくるのは、一生懸命やる子と遊んでいる子と必ずいるのです。そうすると保護者から文句が来るのは、同じ月謝を出して、うちのこどもはサポートしてもらえないとか、そういうものが出てくるので、私はあまり月謝にはこだわっていないのですけれども、回数1回来たらいくら、5回来たら500円、そんな感じでやっていっていいのではないかと思います。一生懸命する子は、どこかでその教えたことを努力していると思うので、私から要望したいのは物品関係と、それから会場、できれば南区なら南区の白根カルチャーは、やはり地元が優先に使えるように、東区なら東区の会場をできるだけ優先に使えるようにしてしまわないと、途端に東区や北区から南区へ来られても、結局、会場取りが大変なのです。学校を解放していただいて使われるのは、これは非常にスポーツによってありがたいことなのですけれども、その道具とか、用具とか、そういう関係がそこにしかない。どうしてもそこしかできないので、それが順番に区別できるようにしていただけるとありがたいなと思いますので、私は物品と会場の確保ができるような形を作っていただければと思います。

○八木学校支援課地域クラブ活動推進室長 貴重なご意見ありがとうございます。今、言っているのは公共施設ということでしょうかね。公共施設については、また文化スポーツ部のほうになるかと思いますが、今日、頂いたお話、しっかりと話ししたいと思います。

○議長（関川会長） あと質問ございますか。なければ地域クラブ活動について、1月の自治協賛問を受けては、これで終わりとなります。ありがとうございました。

3 部会報告

○議長（関川会長） それでは、次に移ります。次第3部会報告等について、部会の検討状況を各部会長から報告してもらいます。はじめに第1部会長から報告をお願いいたします。

○志賀委員 第1部会から報告させていただきます。

去る2月18日（水）に第9回会議を行わせていただきました。議題は二つございまして、一つ目が令和7年度第1部会提案事業評価についてということでありまして、12月の部会で出た意見をもとに作成した事業報告書の内容を確認しました。また、来年度の事業を検討するための情報交換を行っております。二つ目が、美南区クリーンアップ通信についてであります。クリーンアップ月間の参加団体を紙面で紹介する「美南区クリーンアップ通信」について、内容を確認したところでありまして。団体名など一部を修正し、年度末に配布する予定であります。

そのほかでございますけれども、次回日程を3月11日（水）午後2時から実施ということにさせていただきます。以上であります。

○議長（関川会長） 続きまして、第2部会長から報告をお願いいたします。

○織田委員 第2部会です。まず、資料4-2と書かれた部会会議概要のほかに、もう一つ、アンケート結果というホチキス留めのものがあります。そちらも見てくださいながら聞いてください。

まず、議題の1番に挙げてあるのが、中学生のための地域クラブ活動についてです。第2部会は、実施事業を押しつけても、この問題を1番に検討しております。1月9日から30日の実施期間を設けて、アンケートを実施しました。このたび、南区PTA連合会のご協力を得て、南区内のすべての小中学校の教員の方、それから南区内全ての小中学校の保護者の方々、そして別口で、南区内で活動している24の地域クラブに宛てて、事務局からメールにてアンケートの発送をいたしました。

想定以上にたくさんの方が回答をお寄せくださいました。保護者の回答率は、12.3パーセント。小学校1年生の保護者にとっては地域クラブの問題は、まだまだ先のことときっと全く関心を寄せていなかったと思うのに、そういう方々までも母数に入れた中で1割を超える方が回答をくださいました。教員向けについても、48.6パーセント、もうすぐ50パーセントというほどたくさんの方の教員の方がご回答くださいました。地域クラブについては、先ほど申し上げたよ

うに、24クラブのところ31件のご回答。つまりクラブ運営に関わる複数の方がこの回答を寄せてくださったということです。

それではアンケート結果のホチキス留めの冊子をご覧ください。なるべくコンパクトにまとめました。字が細かくなってしまったのですが、なんと18ページもありますので、お時間のあるときにゆっくり見ていただきたいです。最初のところ、ページ1、アンケート結果を踏まえた考察。2月4日の部会では、ここの部分を部会員の皆さんで非常に細かく検討しました。そもそもこのアンケートは「どういう目的で、どういう位置づけで実施したものなのか。」それから、「三者共通して見られた傾向はどうだろうか。」また、「それぞれの立場において課題と感じているものは何だろうか」というように見ていきました。最後、考察のまとめとして、「南区のよりよい中学生のための部活動地域展開を目指すには、これらのアンケートの声を丁寧に拾って、行政が主体となり、保護者、教員、地域クラブ三者共同で早急に上記の課題解決に向けた整備をすることが必須であると考察する」と私たちの部会では結びました。

2ページは教員アンケートの結果をグラフで表したもので、それから3ページから教員アンケートの自由記述です。字が細かくて恐縮ですが、非常に赤裸々な先生の声が綴られています。いろいろな部分で不安を感じておられたり、また懸念されておられることがよくうかがえます。

5ページからは、保護者アンケートの結果のグラフです。グラフに見られるように、多岐にわたったご回答が寄せられました。自由記述のところでは、この全体会でも何度かお話に出た「活動場所がどこになるのだろうか。」「自分の子どもが通っている中学校でないならば、違う場所にどうやって子どもは行くのだろうか。」移動手段のことですね。先ほど、推進室長の八木室長がお話しておられたように、移動手段というのは大きな問題です。それがそっくり保護者の負担になっていること。それから、先ほども話題になりました「費用の面でも心配があること。」この保護者アンケートの自由記述は非常にたくさんの声が寄せられています。本当に読みながら胸がいたくなるような表現がたくさんありました。どうかこの体制についても、大人の知恵で何とか中学生の大事な3年間を守ってあげたい。生徒のやりたいことが何らかの制限で遮られてしまうことのないようにしてあげたいと切に思いました。

14ページからは、地域クラブ関係者のアンケート結果です。いろいろご苦勞がありながら運営してくださっている様子がうかがえます。

そして16ページから自由記述です。先ほど、指導者謝金の問題が出ましたが、「謝金はどういう形で補助が受けられると、クラブとして運営しやすいのだろうか」このことについても、いろいろ皆さんのご苦勞がうかがわれます。行政の関わりについては「行政もぜひ主体的に関わってほしい」という意見がこちらに寄せられます。以上、アンケート集計結果をご報告いたしました。どうぞこの集計結果を、委員の皆さんがそれぞれご自身の母体である団体にお持ち帰りになり、そちらでも共有していただけることを望みます。先ほどの資料3を見ると、先月の自治協でのご説明に「自治協で取り扱う問題ではないと思います」と書いてくださった委員の方もいらっしゃいます。そういうお考えもおありでしょう。ですが、第2部会としては「これは南区の大人が南区の子どもたちのために捨て置けない問題だ」と判断して、第2部会を中心に組み立てました。また、このアンケートは出発点です。まず現状把握をしました。課題もある程度見えてきました。教育委員会のほうでも昨年5月にアンケートをしてくださいました。ですが私たちが今回取ったアンケートとは、結果が少し異なっているように感じております。

この活動は「南区で保護者も教員もクラブ運営者も行政と協働で、よりよい地域展開を目指すこと」をゴールとしましょうということで、第2部会の中で合意を得ました。

このアンケート結果も踏まえて、来月3月16日（月）午後7時から8時半を予定して白根学習館ルーム1・2を会場に、地域クラブの運営者の皆さんにお集まりいただいて、互いに情報交換できる場を提供したいと計画しております。この部会概要には「24団体から代表者含む2名までの参加」を想定としておりましたが、会場の問題で、「各クラブから1名のご参加を」ということにチラシを作り直しました。

2、令和7年度自治協議会提案事業第2部会事業評価については、先ほどの1番の問題でほとんどの時間を費やしてしまったので、宿題にいたしました。各自、「特に評価の部分について」次回の部会までに熟読しておくことといたしました。

3、令和8年度第2部会事業について、急いで進めてなくてはいけないことのみ決めました。

(1) 南区ふれ愛月間事業、誘客企画として「英語で遊ぼう」のイベントを行うことになりました

した。実施日も11月14日を第1希望として、事務局から会場の予約をしていただきます。会場は、白根学習館ラスベックホールを想定して、ステージの上で楽しい英語の公開レッスンをさせていただきます参加型の公開イベントにしたいと考えています。詳細はこれからです。

(2) 夏休みこども見守り事業については、「自分の小学校区でもぜひやってほしい」というお声をたくさん頂いているので、令和8年度は2会場で行ってみよう。2会場で2日ずつ開催します。会場はこれから探します。

次回の日程は、3月11日(水)午前9時半からを予定しています。

ここで皆さんにぜひお願いしたいのですが、第2部会を中心として、この1番の中学生の地域クラブ活動についての問題を検討してまいりました。そして、またこれからもしていきますが、第2部会所属でなくても、この問題に興味、関心を持ってくださる方、ぜひ部会のほうにご参加いただきたいです。部会の一番初めにこの問題について検討しますので、3月11日の9時半にお越しいただけると大変うれしいです。どうか皆様と力を合わせて南区のこどもたちのこれを守っていくことができますよう、よろしくお願いいたします。

長くなりました。以上で部会報告を終わります。

○議長(関川会長) ありがとうございます。

続きまして、第3部会長から報告をお願いいたします。

○松尾委員 令和8年2月2日13時半から会議を行いました。まず議題1、令和7年度自治協提案事業事業評価についてということで、12月の部会で出た意見をもとに事務局でとりまとめた事業評価書の案を確認いたしました。課題として挙げたことを踏まえ、来年度の事業を検討することとしました。

議題2、令和8年度自治協議会第3部会提案事業についてということで、①南区まちなかにぎわい創出事業は、昨年度に続き「白ねこマルシェ」、これは白根大火のあった昔のものを一つ出していこうということで、南区左エ門小路で開催します。開催時期は、区内の他のイベントや連休を避け、第一候補として10月3日(土)を計画しております。昼食を会場でもらえるように、開催時間は10時から13時がよいのではないかという意見がありました。出店者から飲料品も出してもらえるように依頼することや、大人向けの景品、出店者の店舗情報を紹介する方法について検討しました。②南区魅力発見ツアー事業については、ツアー申込者を増やすため、ターゲットや訪問先について、話し合いをいたしました。果物を提供できる10月中旬ごろを実施時期とし、平日の昼間のツアーとなるよう、今後行程を考えることといたしました。

議題3、その他については、次回会議日程3月2日午後1時半から、会議をするということで終わりました。

○議長(関川会長) ありがとうございます。ただいまの説明について、ご意見、質問がありましたらお願いいたします。なければ、部会報告等は終わりとなります。

4 その他

○議長(関川会長) 次第4に移ります。その他について、委員の皆様から何かありますでしょうか。お願いします。

白南防災啓発講座について、上杉委員お願いします。

○上杉小貴子委員 今年度末の事業といたしまして、白南防災啓発講座を3月8日(日)10時から開催いたします。開催場所は、白南中学校の体育館です。今年度は、能登の大震災を経験して2年目を迎えた今、気持ちの緩みが生じてきている今だからこそ、もう一度、身の回りをちゃんと準備をしなければいけないということを啓発したいと思って企画をさせていただきました。講師は、2年前、南区の防災セミナーで講演をいただきました、苺谷大さんという方に来ていただいて、より身近な体験談を話していただくというように企画しております。さらに、新潟市防災士会の南区支部の女性防災士会の西山さんをはじめ、女性防災士会のほうでブースを確保していただいて、いつもの暮らしの中で備えなければいけないものをたくさん展示していただき、さらにクッキングバックなどの実演をしていただきます。今回のチラシでちょっと抜けておりますが、今回「いつものもの」という、新潟防災国体でたくさんのブースを出されていた無印良品の方から出展の協力を得ることができたので、普段の生活の中で備えていかなければいけないものを展示または販売していただけたらというブースを作りました。ぜひ皆さんも日曜日ではございますが、顔を出していただけたらとてもありがたいです。よろしくお願いいたします。

○議長（関川会長） ありがとうございます。

続いて、ほかにありますでしょうか。

○真保委員 小林コミ協主催のスプリングコンサートの案内をさせていただきます。来月3月22日（日）、会場はラスベックホール。今回の出演者は、新潟リング・アンサンブルの皆さんにお願いをしております。有名クラシックからポピュラーな曲まで演奏していただきます。ぜひ皆さんからもご来場願いたいと思います。今現在、353名の申し込みがございます。あと150名、余裕がございますので、ぜひよろしくお願いたします。

○議長（関川会長） ありがとうございます。ほかに委員の皆様ないでしょうか。なければ、続いて事務局から何かありますでしょうか。お願いします。

○柏木産業振興課長 それでは、産業振興課から資料を2点お配りしておりますので、ご案内いたします。

はじめに白根大凧合戦のクラウドファンディングについてです。今年も募集が始まっております。今年、開かれた伝統文化をテーマに、一般の方にも凧合戦に参加していただける体験型企画を実施する予定です。役者組さんと五郎組さんの二つの大凧組で実際に凧合戦に参加できる特別なメニューをご用意しております。そのほかにも、このプロジェクトでしか手に入らない限定品のリターンがございます。募集期間は、体験型企画が3月31日まで、その他のリターンは7月31日までとなっております。ぜひ皆様からも地域の皆様へお知らせいただきまして、応援の輪を広げていただければ幸いです。

続きまして、サポーター企業の募集についてです。こちらは今年初めての取組みとなります。凧合戦を今後も継続していくため、開催や運営を支えてくださる企業を募集しております。ご支援いただいた企業様には、特設ホームページや当日配布チラシ、インスタグラムなどで社名を掲載させていただきます。また、サポーター企業としてご支援いただいていることを自社の広報などで発信していただくこともできます。募集の締め切りは3月10日までです。委員の皆様におかれましては、お知り合いの企業様などがございましたら、ぜひご紹介いただけますと幸いです。以上です。よろしくお願いたします。

○議長（関川会長） ありがとうございます。ほかに事務局、何かありますでしょうか。

○事務局（北地域総務課長補佐） 地域総務課からお知らせします。最後、カラー刷りの南区防災セミナーのチラシをご覧ください。来月3月20日（金）春分の日（祝日）になりますけれども、午前10時から白根学習館ラスベックホールにおいて、南区防災セミナーを開催します。例年、地域防災力の向上に向けた防災啓発の取組みとして開催しておりまして、今年は新潟放送BSNの防災・減災プロジェクトと連携しまして、「そのとき、あなたは動けますか？」をテーマに2部構成で行います。第1部の基調講演は、実際に防災士の資格をっておられるBSNの工藤淳之介アナウンサーから、「報道の現場から考える身近な防災」をテーマにお話ししていただきます。第2部のトークセッションは、ラジオパーソナリティの遠藤麻理さんと防災士の代表として鈴木委員と西山委員がパネリストとして登壇し、「防災って、何から始めればいいのか？」をテーマに意見交換を行います。すでに2月1日から申し込みを開始しておりまして、現在、160人ほどの申し込みを頂いております。定員は300人ですけれども、昨日からラジオでの告知も始まりましたので、今、参加を迷われている方は、早めの申し込みをお勧めいたします。参加費無料で、どなたでも参加できますので、ご家族、ご親戚、ご友人などをお誘いいただき、多くの方から参加していただければと思います。

○議長（関川会長） ありがとうございます。ほかに事務局から何かありますか。ないようであれば、その他はこれで終わります。

5 次回全体会の日程について

○議長（関川会長） 続きまして、次回の全体会の日程について入ります。開催日は、毎月最終水曜日ということになりますので、3月25日（水）午後2時、南区役所講堂で開催ということによろしいでしょうか。

令和8年3月25日（水） 午後2時00分から 南区役所4階講堂

6 閉会

○議長（関川会長） 以上をもちまして、第9回南区自治協議会を閉会とします。ありがとうご

ございました。

(午後 3 時 3 0 分)